

学校評価報告書

学校名 深谷市立藤沢小学校
校長名 嘉藤 央 印

1 学校評価のねらい (学校・園としての受け止め)

本校の教育活動及びその他の学校運営について、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者や保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される学校づくりを進める。

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

(1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。

○学校経営、教育課程の編成・実施等に関する評価

※学校経営等、学習指導等、PTA他 計47項目について、4段階評価で実施。

(2) 学校関係者(学校運営協議会委員)から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。

○教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価

○教育環境の状況に関する評価

※教育活動3項目、教育環境3項目、計6項目について、4段階評価で実施。

(3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。

○教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価

○教育環境の状況に関する評価

※10項目について、4段階評価を実施。あわせて家庭での学習や生活の状況等(8項目)についての自己評価を実施。

(4) 全児童から学校生活での学習状況や道徳性について年2回、自己評価する。

○学校での学習状況や道徳性に関する自己評価

※17項目について、4段階評価で実施。(平成29年度は、学校研究に関連して年間3回実施。)

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化

・児童への調査では、「学校が楽しい」が年間平均95.4%、「学校が好き」が同93.6%と、自己評価は高い数値を示している。また、深谷市「6つの誓い」の中の「あいさつ」が同90.1%、「くつそろえ」が同93.7%、「ありがとうが言える」が同97.1%と忠恕の心が育っている。調査項目、全17項目で90%を上回った。

・保護者への調査では、学校の教育活動に係る評価が、全10項目で90%以上の評価を得ている。特に、「たくましく健やかな体の育成」と「安全で学びやすい環境の整備」に係る項目が、98%以上達成している。家庭での様子に係る評価8項目の中で、特に「家庭での学習習慣が身に付いている」(80.9%)、「勉強や運動など、粘り強く努力している」(81.8%)については、学校と家庭が連携して、継続的に取り組んでいく必要がある。

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

・保護者アンケートでは、「学校教育目標達成を目指し、計画的に教育活動をしている」に係る評価は、97.7%と高い数値を示している。3つの保証(安全・学習・人権の保証)に係る評価は、「安全で学びやすい環境」(98.4%)、「分かりやすい授業」(97.7%)、「やさしく思いやりのある豊かな心の育成」(97.3%)と高い数値である。

・学校運営協議会委員による教育活動への評価は全6項目が「4」または「3」と評価しており、達成率は100%である。特に「家庭地域との連携」は全員が「4」の評価をしている。

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

○学校研究課題「よく考え、ともに学び、よりよい行為を実践できる子供の育成」
—特別の教科 道徳による学校教育目標の具現化を通して—に係る評価

・全体の傾向としては、17項目の係る評価3回の平均が94.0%(第1回:94.7%、第2回:94.5%、第3回:93.0%)であり、年間通して高い自己評価の数値を示していると言える。

・児童の傾向としては、「友達に親切」や「友達と仲良く」、「約束を守る」、「ありがとうと言える」などに係る項目が、年間平均で96%を超え、自己評価は高い。半面、「勇気を持って挑戦」(年間平均88.9%)や「困ったときに先生へ相談」(年間平均87.7%)の2項目は、特に自己評価が低い。

・学校研究課題への取組は、心の教育推進に係る成果があがっている。自己肯定感や自尊感情の向上への働きかけが今後も継続的に必要である。

4 次年度に向けての展望

平成30年度、開校130年目を迎える。本年度高く評価された家庭や地域との連携をさらに密にし、「ふるさとのような学校」作りを推進する。学校研究課題で取り組んだ道徳については、来年度教科化を迎えるため、研究の成果を生かし、継続的に取組充実を図る。本校の課題である学力向上については、「わかりやすい」授業づくりを継続しつつ、表現力の向上、中・上位層への伸びを目指した取組充実を図る。